

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201161		
法人名	(株)アース		
事業所名	グループホームもも		
所在地	清水区有東坂3-5		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 20	評価結果市町村受理日	令和元年12月6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここでしかできないケア、傾聴し寄り添いあえる関係づくりを目標にしています。私たちにとって大切な人という意識を持ち関係性をつくりみんなで楽しく生活出来るように日々工夫しています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294201161-00&ServiceCd=320](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201161-00&ServiceCd=320)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 元 年 10 月 31

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに池のある広い公園があり、公園を散歩をしていたり、グランドゴルフをしている人が見え、声をかけてもらうこともある。職員同士話しやすく相談しやすい雰囲気である。管理者は介護職を兼任しているので利用者のようすがわかり、相談しやすい。社内研修が充実しているため職員は向上心がある。利用者が穏やかな表情をしていて、リビングでは会話が弾んでいた。外出にこまめに出かけている。地域との交流も盛んで、地域行事に参加したり、事業所の祭りにも多くの人に来てくれ、防災訓練や外出にも協力が得られる。近くに保育園や幼稚園があり、交流がある。運営推進会議に自治会長と副会長が2地区から参加してくれる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し共有を実践している。毎朝、理念の合唱をし皆で共有し業務活動の確認をしている	前回の外部評価後目標達成計画を立て、会社の理念の「アースの約束」のリニューアルされたものを職員全員が名札に入れ、意識している。施設の目標を毎年立て、関連施設が集まる機会に反省と成果を発表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域活動の参加、地域交流、事業所の催し等の活動に努め交流させて頂いています	地域の清掃には職員が参加し、祭りや防災訓練には職員と利用者が参加している。施設のお祭りには地域の役員が手伝ってくれ、地域住民が多く来てくれる。雑巾やタオルオムツの差し入れがある。保育園や幼稚園児が頻繁に来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を始め、近隣のケアマネージャとの交流を図る為に年に数回座談会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月に1回開催しておりテーマを決め研修や交流し意見交換で出たことの改善策を職員会議で話し合いサービス向上に努めている	2地区の自治会の会長、副会長、民生委員が参加してくれ、活発な意見を出してくる。会議に研修や試食を取り入れ、地域の人に好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の出席を市役所担当者を始め地域包括支援センターにお願いしている。サービス内容の確認時に相談し協力体制を図っている	地域包括支援センターの職員は相談のにつけてくれたり、関わりがある。市の職員とは介護認定の更新時や制度がわからない時等に質問をし関わるようにしている。外部研修の知らせがあり、参加して参考になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の下、研修等に参加し職員全員が理解しケアを行なっている気の付いた事例はその都度話し合い内容を記録し職員全員で共有している	会社で委員会を開いているので、参加して、職員に周知し、共有している。新入職員には日々の業務の中で、個別に指導している。月に1度のカンファレンスでも研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加を促しミーティング時に利用者のケア内容を見直し人権尊重について話し合う機会をもっている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には活用できるように管理者は研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解納得がしていただけるように説明を行い不明な点や疑問にはいつも対応していただけるように配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見、ご要望をいただく機会を設けるとともに面会や電話連絡等にもご意見を伺うようにして改善策を検討している。当日内容は全ご家族にお伝えしている	家族がよく来てくれ、意見を言ってくれる。遠い人には電話をして、意見を聞いている。毎月、写真と請求書とともにお便りを送り、運営推進会議の議事録も同封している。家族からの意見は全職員が把握するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に意見交換を行い内容は記録し職員全員で共有できるようにしている	月に1度、全員参加のミーティングを行っている。話し合ってもらいたいことは事前に申し送りノートに記入してもらっている。介護ケアについての意見が多くでている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間には残業ゼロを徹底している。職員のお状況を把握してそれぞれの表かが行われ個々の力が発揮されるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加しモチベーションが維持される様に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの事例検討会やケアマネ事例検討会等の活動に参加して情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時からご本人についての情報、生活歴や趣味、嗜好等をお聞きしましたご本人の要望や意見を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時からご家族と連絡を取り合い、不安や要望を話す事ができるように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームで対応できないサービスがご本人ご家族に必要な場合はご本人、ご家族が必要とされているサービスの情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等を行う時はともに楽しむ事ができるように入居者と介護職員が話し合いをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回生活状況の報告や御家族に郵送している衣替えの時期やご家族の協力が必要な時は協力をいただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては御家族からの協力や情報からいつでも面会できるようにしている。外出、散歩等は慣れ親しんだ場所に行っている	天気の良い日にはなるべく、外に散歩に出るようにしている。出かけると、公園に来ている人が声をかけてくれる。家族や知人の訪問がよくある。お墓参りや外泊に連れ出してくれる家族もある。前に住んでいた家を見に連れて行くと落ち着く利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席はご本人が安心して日常生活ができ他の利用者との交流がはかれるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とあればいつでも、ご本人、ご家族また関係者からの相談や支援をおこなうようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに耳を傾け思いの実現や維持ができるように努力している。安心して生活が維持できるようにご本人の言葉や表情などの変化を見逃さないように努めている	日常的に利用者と共に過ごす時間を大切にしている。会話や仕草を観察して、利用者の気持ちを汲むように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時からご本人、ご家族、または関係者から情報を得よう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人家族。かかわっている関係者から情報を得よう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から意見を聞き医療関係者、介護職員の日常観察や意見等を取り入れケアプランを作成しご本人、ご家族に説明し承諾を得ている。	月1回の会議で全利用者のカンファレンスを行っている。利用者には担当職員がいて、日々の様子を発表する。業務日誌以外に利用者の個々の日々の様子を記録し、ケアマネージャーが介護計画を立てる為の参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング記録を行ない情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人、ご家族のニーズにこたえることができるように努めている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内で交流ができるように自治会の行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望を重視。それぞれのかかりつけ医との連携を図り心身ともに健康な生活が維持できるように努めている	現在は利用者全員が協力医の往診を月に2回受けている。訪問看護師は毎週来て、24時間対応である。歯科は隣にあるので職員と歩いて行く。その他の科の受診は家族にお願いしているが緊急時は職員が対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況等を看護師に伝え相談がすぐに出来、適切な受診が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係者と連携しご家族を含めた情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化についてご本人、ご家族の意見を確認し終末期や重度化での対応について説明し承諾をいただきかかりつけ医、訪問看護師の協力、連携を行いながら取り組んでいる	入居時と重度化、終末期に内容を説明して契約書にサインをもらっている。特に週末期その時がきたら医師の説明後、家族の同意書ももらっている。看取りについては管理者が全面的にバックアップするが、会社で看取りの研修を行って全職員がスキルアップしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応策は掲示している。カンファレンス時に再度確認や研修・防災訓練などに参加して対応できるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年3回の防災訓練を利用者と共に行う。地域の防災訓練にも参加。運営推進会議時にも報告や情報交換を行っている	火災・地震の訓練を昼夜想定で実施している。地域住民も訓練に参加、協力をしてきている。防災委員会は本社職員とスタッフで構成され、年2回会議をして課題をだし、情報共有をしている。	夜間想定訓練を経験していない職員がいるので、全職員に経験してもらえるように希望する。長時間停電の備えをし、避難訓練で消防署より避難経路の指摘をされたことを改善中とのことなので、解決して、災害に備えられるような体制づくりを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重や自尊心の維持を重視してケアを行っている	接遇の研修は会社で実施しているので挨拶や受け答えができています。利用者に不適切な言葉づかいをしている場合はその場で注意している。利用者への呼びかけは利用者の好む形を採用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がいつでも希望や思いが言える自己決定ができるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のお気持ちを重視して安心、安全に日々を送る事ができるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して、ご本人のお好みのヘアスタイル、カラーをしている。着替え時の洋服選びはご本人が行なっているか聞きながら職員と選ぶ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房が調理しているが、月に数回利用者話し合い献立をたて調理する機会を設けている	通常は厨房でカロリー計算をされた食事が調理され運ばれてくる。利用者の誕生会や行事でホットプレートを使用しておやつを作ったり、配達をしてもらったりしている。食器洗いや食器拭きはできる利用者が手伝ってくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や量を提供し食事・水分摂取量が把握できるように記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態で介助を行いながら起床時。就寝時、毎食後の口腔ケアを行っている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、その人にあった介助を行っている	排泄チェック表には水分量も記入し、自立の利用者にも上手に排泄状況を聞いていた。部屋やトイレにナースボタンが取り付けられていて、夜間のトイレ時やトイレの終了時に知らせている利用者もみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や散歩や運動を行い、できる限り自然に排便ができるように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴を行なっている。更衣室、浴室等の温度管理には気を付けています	基本は週に2回入浴してもらう。利用者が入浴したい時間をきいたり、入浴剤を使うなど楽しめるように工夫している。夏には水虫治療の一環として足浴を行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを崩さないように、個々に合った休息時間が確保できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一人一人のファイルにいれ服薬の把握、服薬中の為留意点等を把握できるように努めている。薬に変更があった場合は申し送りノートと申し送り時に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯物や片付け、配膳、盛り付けメニュー書き、清掃個々に意欲的に参加できることを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望日以外でも、毎日公園に散歩にでかけて月に数回車で外出している。買物を希望している時は皆さんと出かける時もある。必要時には家族の協力をいただいている。	天気の良い日には散歩に出かけるようにしている。公園は景観が良いのでゆったりと過ごせる。1階のデイサービスに体操やボランティアの見学に出かけたりもする。近くのイオンやドリームプラザ、ベイドリームにも車で外食に出かけたり、寝たきりの利用者を連れて行くこともある。	



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、家族に協力をお願いして、金銭を所持することができている。外出時には好きな物を購入する機会がある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話したり、家族、友人等の電話を受け継いだり支援を行なっている。手紙も同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは自然の光が入りまた、外の公園の木や池の景色を楽しむ事ができる。花や植物等を置き、ゆったり過ごす時を大切にしている	居間の窓から近隣の人々が見え、近くの幼稚園や保育園から散歩に訪れる園児の様子も眺めている。公園には桜や池があり四季の移ろいを感じられる。施設の一部に花壇や畑を作り皆で収穫を楽しんでいる。施設内の温度や湿度も計器で注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所で過ごせる。ソファや椅子にゆったりと過ごす時間を大切にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、慣れた家具や寝具、好きな物を置いて頂いている	仏壇や使い慣れたタンスが置かれている。家族が壁にきれいな花柄のシールを張ったり、古風なタンスに帯の敷物が置かれていたり、おしゃれな雰囲気のある部屋がある。ラジオの好きな利用者はベッドに置いて、外を眺めながら放送を楽しんでいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には施錠なく階段なども自由に昇降できるようにしている		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		夜間想定避難訓練を経験していないスタッフも多く実施が必要。避難経路の確保について消防からも意見を頂いているので改善が必要	夜間想定避難訓練の実施。避難経路の確保。自己発電等の確保	避難訓練の実施をし全スタッフが対応できるようにして行く。避難経路の確保をできるだけしていく。自己発電の確保を検討。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。